



東京歯科大学広報

創立120周年記念学生行事開催



全学生が一堂に会した120周年記念学生行事：平成22年11月1日(月)、アパホテル東京ベイ

創立120周年記念学生行事が平成22年11月1日(月)幕張のアパホテル&リゾート東京ベイ幕張において開催され、第1～6学年の全学生800余名が一堂に会するものとして、創立120周年記念行事の最後を飾るのに相応しい記念すべき一大イベントとなった。

当日は早朝より局地的な豪雨に見舞われたが、熱田俊之助理事長、金子 譲学長、大山萬夫同窓会長、鈴木千枝子父兄会長にご臨席いただき、午後2時から特別講演会、そして、午後4時から懇親会が予定どおり実施された。

特別講演では、メジャーリーガーのイチロー選手やプロサッカー日本代表の中村俊輔選手、アテネ・北京オリンピック金メダリストの北島康介選手などの指導にあたられている、メンタルトレーナーで日本心理学会認定心理士の高畑好秀氏に、「本当のプロフェッショナルになるために・イザという時に100%の実力を発揮するメンタル

レーニング」と題した内容のお話をいただいた。学生たちは、試合や試験などの本番で、緊張や動揺することなく本来の実力を遺憾なく発揮できるよう、皆興味深そうに聴講していた。講演の中では、実際に学生を登壇させ、意識によって体の重心が変化し、力の出方が違ってくことなどを実際に体験をさせたりして、参加者を巻き込みパフォーマンスに溢れる内容となった。

続く懇親会では、Big Band Jazz部による演奏の中、ダンス部のパフォーマンスに加えて、創立120周年記念にお祝いの花を添える豪華賞品抽選会が行われた。賞品には、若者に人気の iPod touchや iPad、Wii、一眼レフデジタルカメラ、美顔器などのほか、理事長賞・同窓会長賞・父兄会長賞としてそれぞれHDD内蔵デジタルテレビ、学長賞としてブルーレイディスクレコーダー&デジタルテレビセットなど豪華賞品が並び、当選した学生達の歓喜と共に懇親会は大変な盛り上

2010年 10・11月

245号

本号の主な内容

- ・ 創立120周年記念学生行事開催 1
- ・ 第42回東歯祭開催 3
- ・ 延世大学校歯科大学病院職員来校 19
- ・ 訃報 西村正雄名誉教授ご逝去 20



メンタルトレーナー高畑氏の講演「本当のプロフェッショナルになるために」：平成22年11月1日(月)、アパホテル東京ベイ



鈴木父兄会長から全学生に記念品のプレゼント：平成22年11月1日(月)、アパホテル東京ベイ



高畑氏と学生が体を使って分かりやすく解説：平成22年11月1日(月)、アパホテル東京ベイ



金子学長と談笑する学生：平成22年11月1日(月)、アパホテル東京ベイ



講演途中、質疑応答でのハプニングに会場が笑いの渦に：平成22年11月1日(月)、アパホテル東京ベイ



懇親会で激しい踊りを披露するダンス部部員：平成22年11月1日(月)、アパホテル東京ベイ



総務委員長 川上良明君(5年)から御礼の挨拶：平成22年11月1日(月)、アパホテル東京ベイ



懇親会で息のあった演奏を奏する Big Band Jazz 部：平成22年11月1日(月)、アパホテル東京ベイ

がりを見せていた。会の終わりには混声合唱部のリードで校歌を斉唱し、記念学生行事を締めくくった。退場の際には、東京歯科大学父兄会より

創立120周年学生行事記念品のスポーツタオルが手渡され、学生達は120周年の思いを胸に笑顔で会場を後にした。

第42回東歯祭開催

第42回東歯祭が平成22年10月30日(土)・31日(日)の2日間にわたり開催された。今回は、本学創立120周年記念式典の節目の年であり、「TDC120」と名付けられた。学生たちは、初めてのことに挑戦する(Try)、夢に向かう(Dream)、自分の意識を改革する(Change)をテーマとして掲げた。3年生の星野立樹実行委員長を中心に約40名の実行委員が一丸となって企画・準備・運営にあたった。初日は季節外れの大型台風通過により暴風雨に見舞われ、野外で行われる模擬店、競技会は全て中止となり、野外ライブ等のイベントは屋内に会場を移動して実施された。心配された雨も2日目の午後には上がり、模擬店や競技会も再開され例年の東歯祭に戻り、2日間で約1,000名を動員した大学祭となった。



120周年の節目にあたる第42回東歯祭は雨の中始まった:平成22年10月30日(土)、千葉校舎

■充実した展示部門

今回の「講座・研究室展示」は準備万端、多くの来場者を期待していた。台風通過による悪天候で出足が悪いのにもかかわらず、来場した人達は足を止めて興味深く展示を眺めていた。

解剖学講座や法人類学研究室の展示は、普段一般の人が見られない貴重な資料を見ることができるということで、今年も来場者のほとんどが立ち寄り人気展示となっていた。

例年通り「クラブ展示」も行われ、特に国際医療研究会の展示は随所に工夫が施されており、地

道な活動が多くの人々に幸せを与えていることを知ることができた。



展示・掲示とともに素晴らしい出来映えの国際医療研究会:平成22年10月30日(土)、千葉校舎教養棟1階



延世大学校との学生交流会・新しい友人と沢山の思い出:平成22年10月30日(土)、千葉校舎教養棟1階

■雨の東歯祭

ちびっ子ダンスとダンス部の催しが講堂で30日に開催され、日頃の練習の成果を発揮して観客と共に思う存分楽しんでた。野外で行う予定だったBig Band Jazz部とM.L.S.は急遽室内に場所を移してのライブとなったが、学内外の熱心なファンが訪れて耳を傾けていた。「U字工事」「山本高広」そして「麦芽」のお笑いライブショーが31日に講堂において行われた。

東歯祭は、日頃の活動成果を披露する絶好の機会ともいえ、混声合唱部の第50回定期演奏会や管弦学部の公開リハーサルの他、千葉西高等学校吹奏楽部の演奏会などが催された。

例年好評の大学院学生会による「無料歯科相談」、歯科衛生士専門学校3年の60期生による「ブラッシング指導」も来場者からの関心を集めていた。また、31日には入試ガイダンスも行われ、多くの受験生と保護者が参加した。



歯科無料相談で来場者のひとり一人に誠意をもって接する大学院生：平成22年10月31日(日)、千葉校舎教養棟1階



雨雲を吹きとばす笑顔でブラッシング指導・歯科衛生士校60期生たち：平成22年10月31日(日)、千葉校舎教養棟1階

■凝縮した模擬店

各クラブ等による模擬店は当初16のグループから出店される予定であったが、残念ながら台風の影響で数店がキャンセルとなった。設定目標が無くなりバラバラになってしまうような危機的な



今年のNo.1、ラグビー部の熱々「イカ焼き」は超美味：平成22年10月31日(日)、千葉校舎中庭

か、「雨降って、地固まる」という言葉通り、2日目には陽射しと共にテンションが上がり、各クラブは様々な工夫を凝らし2日分を1日で売り切るように、頑張っている姿が見られた。その甲斐あってか、お昼過ぎには売り切れの看板を出す模擬店もあり、日々クラブ活動で鍛えている「逆境に負けない強さ」が垣間見えた。

■頑張ったバザー部門

体育館1階の卓球場で行われたバザーは、毎年近隣住民の方々から好評を得ている。本学の教職員・学生が商品を持ち寄り格安の値段で提供するこのバザーは、新品同様の日用品や高級衣料を目標にした来場者で2日目は特に賑わいを見せていた。台風の影響で売り上げは例年の半分ではあったが大健闘であった。なお、バザーの収益金は全額SHARE(国際保健協力市民の会)に寄付された。

■後夜祭

31日午後6時過ぎから、教養棟第5教室にて金子 譲学長をはじめとする大学幹部および教職員、片倉恵男同窓会副会長ご出席のもと、後夜祭が行われた。まず始めに、星野立樹実行委員長が挨拶に立つと実行委員をはじめ会場から拍手が沸き起こった。うれしそうに微笑みながら挨拶をしている姿は、参会している人達の心を温かくした。

金子学長のご挨拶と総評の後、来賓の片倉同窓会副会長よりご挨拶をいただいた。続いて、クラブ展示部門、講座・研究室展示部門、模擬店部門の優秀賞が佐藤 亨学生部長から発表され、金子学長から賞状が授与された。今年の英語ポスターコンペティションは120周年記念行事で行われた



実行委員を代表して挨拶をする星野実行委員長：平成22年10月31日(日)、千葉校舎教養棟第5教室

こともあり、ポスター掲示のみとなった。(表彰団体・表彰者は下記のとおり)

最後は、教職員・学生が声を合わせて校歌を斉唱し、河田英司教務部長による乾杯となった。

実行委員は小雨の降るなか全員で記念写真を撮影した。集合した学生は大きなかけ声と共に水掛けが始まり、全員びしょ濡れとなりながらも歓声はいつまでも続いていた。



台風直撃、人手不足、睡眠不足を乗り越えた実行委員：平成22年10月31日(日)、千葉校舎厚生棟前特設ステージ

クラブ展示部門

- 第1位 国際医療研究会
- 第2位 延世大学校歯科大学との学生交流
- 第3位 写真部

講座・研究室展示部門

- 第1位 法人類学研究室
- 第2位 生理学講座
- 第3位 薬理学講座

模擬店部門

- 第1位 ラグビー部 「イカ焼き」
- 第2位 少林寺拳法部 「たこ焼き」
- 第3位 M.L.S. 「ホットドッグ」

英語ポスター掲示 参加者

- 大峰悠矢君(6年)
- 高本愛子さん(6年)
- 田中らいらさん(4年)
- 宇田川小百合さん(4年)

「東歯祭を終えて」

東歯祭実行委員長 星野立樹(3年)

10月30(土)・31日(日)に開催された、第42回東歯祭。今回は、異例の台風直撃ということで急な変更もあり、どの部門も大変でしたが、良きメンバーにささえられ、なんとか無事にやり遂げることができました。1日目の模擬店は厚生棟のみで販売を許可し、野外イベントは校舎内で開催しました。2日目は台風も去り、模擬店は予定より少なくなりましたが野外で行うことができました。

今回の東歯祭は「TDC 120」。学生諸君が様々なことに挑戦する(TRY)、夢に向かう(DREAM)、自身の意識を改革する(CHANGE)。数字の120は本学創立120周年という意味を込めてテーマとしました。

今年はコスト削減の為、芸能業者を変更したり、地元千葉ロッテマリーンズの日本シリーズ出場を記念して応援ブースを設けたりしました。また、M-1(模擬店No.1)と称して模擬店の投票を行ったりと、今までとは違う新しい試みにも挑戦しました。

台風という悪条件の中、1,000人を超える方々にご来場いただきました。東歯祭開催にあたり、大学の先生方を始め、大学職員の方々、先輩方、地域の皆様にとくさんのご協力をいただきましたことを深く感謝しております。大変なこともありましたが、皆で協力したからこそ良い文化祭になったのだと思います。東歯祭前に実行委員長として、終わってからみんなが「やっていて良かった」と思える文化祭にする、という目標は、みんなの感想からも、達成できたと思います。私自身、楽しみながらできたのも実行委員のメンバーのお陰と本当に感謝しています。

大学が東京に移転するため千葉での東歯祭は残り少ないですが、後輩たちが今後の東歯祭を盛り上げていってくれることを期待してバトンを渡したいと思います。もちろん今まで先輩方がしてくれていたように、私たちもバックアップは惜しみません。120周年という記念すべき年に実行委員長を務めさせていただき光栄に思っております。本当にありがとうございました。

■東歯祭スナップ



近隣住民で盛況だったバザー 2日目：平成22年10月31日(日)、千葉校舎体育館1階



晴れ舞台上で伸び伸びと踊るダンス部部員：平成22年10月30日(土)、千葉校舎講堂



心地よい演奏に何度も大きな拍手が：平成22年10月31日(日)、千葉校舎教養棟第5教室



雨を吹き飛ばす力強い歌声：平成22年10月31日(日)、千葉校舎厚生棟前特設ステージ

■教授就任のご挨拶



化学研究室

加藤 哲 男

このたび教授会の御推挙により、平成22年11月1日付をもちまして化学研究室教授に就任いたしました。120年もの伝統と輝かしい実績を誇る東京歯科大学の教授を拝命いたしましたことは身に余る光栄であり、身の引き締まる思いでいっぱいです。

私は、昭和57年から26年間本学微生物学講座で専門基礎科目の教育および研究に携わってまいりました。その間、高添一郎先生および奥田克爾先生の御指導のもと、多くのことを学びました。平成21年からは教養系化学研究室に移り、1～2

年生を中心に教育に取り組んでおります。学生に国家試験に合格しうる基礎を十分に身につけてもらうために自然科学系の教養科目は非常に重要であると考えています。特に化学は、専門基礎科目の生化学などをはじめとして微生物学や、生理学、あるいは薬理学を理解するためには欠かせない科目であり、そのことを充分認識して、学生に教育していきたいと考えています。CBTやOSCEが導入され、学生にはそれらに対応するための基礎知識の習得が肝要であり、それに応えるような教育をしていく必要があるでしょう。また教養科目から専門基礎科目への橋渡しということを考えると、研究の最前線に立ち新しい情報に触れていくことも大事なことだと思っております。

口腔の防御において重要なはたらきをしている唾液中の抗菌性タンパク質が、生体防御および生体制御においてどの様に機能しているのか、そのタンパク質構造の化学的解析および作用機序の分子生物学的解析を行っていきたくと考えておりま

す。さらに、感染防御や高齢者などにおける機能回復へと、臨床応用を目指して研究を展開していく予定です。また大学院生など若い研究者の育成も念頭にいれ、研究に取り組んでいきたいと思っ

ております。

今後は、さらに教育・研究に邁進し、しっかりと務めて参りますので、御指導・御鞭撻のほど、よろしくお願いたします。

学内ニュース

■石井武展助教 日本矯正歯科学会で学術大会優秀発表賞を受賞

平成22年9月28日(火)・29日(水)にパシフィコ横浜で行われた第69回日本矯正歯科学会大会で歯科矯正学講座の石井武展助教が学術大会優秀発表賞を受賞した。石井助教は口腔科学研究センター(プロジェクト7)および歯科矯正学講座において、以前より頭蓋顎顔面における成長コントロールに関する研究を行っている。

今回は「成長期ラット咬筋にアセチルヘキサペプチドを用いた場合の下顎骨形態への影響」と題し、成長期のラットの咬筋筋力を減弱させると、付着する骨の成長発育が変化することを動物実験用マイクロCTによる縦断的な形態学的計測および病理組織学的検討から明らかにした。最近流行のアンチエイジング化粧品の有効成分でもあり、神経-筋機構におけるアセチルコリン受容体に作用するアセチルヘキサペプチドを応用した。本研究では、頭蓋顎顔面を取り巻く筋肉の量や質のバランスが悪くなることで、顎変形症を惹起する可能性があることや、バランスを変化させることで、成長期に頭や顔、顎の形をコントロールすることが可能となることが示唆された。これは、顎変形症の一病因論を解明するだけでなく、従来より困難とされてきた思春期性成長中の顎変形症患者に対しての積極的な予防法や治療法、矯正歯科治療後の後戻り防止策の新たな提案でもあ

る。今後は、顎変形症の治療として従来の矯正装置だけではなく、投薬や注射による新たな治療法の開発を目指している。

■武本真治講師 発表優秀賞を受賞

平成22年10月9日(土)・10日(日)に開催された第56回日本歯科理工学会学術講演会(国際長良川センター・岐阜県)で歯科理工学講座 武本真治講師が発表優秀賞を受賞した。本発表優秀賞は、当該学術講演会で発表された口頭発表、ポスター発表の中から学会評議員、デンタルマテリアルシニアアドバイザーの投票により選出される賞である。今春開催された第55回日本歯科理工学会学術講演会(タワーホール船堀・東京都)での武本講師の“チタン合金の耐食性に及ぼす酸性溶液中での過酸化物の影響”と題した発表が評価されての受賞となった。

受賞対象となった研究内容は、4種類のチタン合金を炎症反応が生じた環境をシミュレートした過酸化水素を含む生理食塩水中に浸漬し、その合金の表面分析を行うことで過酸化物がチタン合金の耐食性に及ぼす影響を明らかにすることを目的として行われた。市販の純チタンやTi-6Al-4VおよびTi-6Al-7Nb合金では、過酸化物を含んでいる酸性溶液中で過酸化物によって合金表面が酸



末石研二教授(右)と受賞した石井助教(左)



受賞式後、榎本眞三日本歯科理工学会会長と記念撮影(左 武本講師):平成22年10月9日(土)、岐阜県・岐阜都ホテル

化され、酸化膜の厚みが増加することで変色が誘引されることを明らかにした。一方で、試作のTi-20Cr合金は過酸化化物による酸化の影響が小さく、変色が誘引されないことを示した。これらの結果は、チタンインプラントが置かれる環境での耐食性をシミュレートする上で基礎的知見となることが高く評価された。今後、チタン合金が歯科材料として応用されるためにさらなる基礎研究を充実させ、EBMに基づいた臨床を提案することが熱望されている。

■第290回東京歯科大学学会総会開催

平成22年10月16日(土)千葉校舎において、東京歯科大学学会総会が開催された。

口演32題は第1・2教室で、示説11題は第2ラウンジを会場として、各々発表された。午後12時から午後1時まで第1教室において、「平成22年度東京歯科大学学会評議員会・総会」が開催されるとともに、午後2時15分から午後4時45分までは、講堂において、今年度末で定年を迎えられる3教授による特別講演が行われた。



東歯学会評議員会・総会にて挨拶をする金子 譲学長：平成22年10月16日(土)、千葉校舎第1教室



東歯学会特別講演後、演者を囲んで。前列左3人目より山田教授・下野教授・角田教授・金子学長・中久喜 喬名誉教授・浅井康宏名誉教授：平成22年10月16日(土)、千葉校舎講堂

1. 「口臭治療に携わって40年」
角田正健 教授(東京歯科大学千葉病院 総合診療科)
 2. 「歯周病学とともにあゆんだ40年」
山田 了 教授(東京歯科大学 歯周病学講座)
 3. 「治癒の病理-歯科臨床と基礎の接点を求めて-」
下野正基 教授(東京歯科大学 病理学講座)
- また、参加13商社による商品展示が第1ラウンジで行われた。

■有坂岳大助教 優秀ポスター発表賞を受賞

平成22年10月16日(土)から18日(月)に幕張メッセ(千葉県)で開催された第55回日本口腔外科学会総会・学術集会において、オーラルメディスン・口腔外科学講座の有坂岳大助教の発表した「顎矯正手術における咽頭気道の変化-遠位骨片の骨膜剥離による影響-」が優秀ポスター発表賞を受賞した。これは第55回日本口腔外科学会総会・学術集会の厳正なる審査の結果、優秀演題として採択され演題の筆頭演者に授与されるものである。

受賞対象となった研究内容は、顎変形症への下顎枝矢状分割術の際に遠位骨片(歯牙の植立している骨)の骨膜剥離操作による咽頭気道の変化を内視鏡にて観察し、剥離前後でその前後径を計測するものである。結果は剥離前には遠位骨片の前方移動で咽頭気道が有意に拡大され、剥離後はあまり咽頭気道に変化がなく、遠位骨片の前方への可動域は増大する結果であった。このことから、閉塞型睡眠時無呼吸症候群に対し呼吸障害を改善する目的で顎矯正手術を施行する際、遠位骨片の骨膜剥離操作に検討の余地があることが推測された。



山根源之教授(左)と受賞した有坂助教(右)

■第313回大学院セミナー開催

平成22年10月18日(月)午後6時より千葉校舎第1教室において、第313回大学院セミナーが開催された。今回は星薬科大学薬学部薬品毒性学教室の鈴木 勉教授をお迎えして、「がん疼痛治療と医療用麻薬」と題した講演を伺った。

講演では、モルヒネをはじめとする医療用麻薬の作用機序や、副作用(便秘、呼吸抑制など)、依存性に関する最近の薬理的知見を紹介された。また、医療用麻薬はWHO方式のがん疼痛治療に広く用いられているが、本邦においてはその使用量が、先進諸国中で最も低いことを指摘された。その原因として医療用麻薬に対する依存や副作用の誤解があることを示された。しかし、鈴木教授のご研究で使用法、使用量などにより医療用麻薬による依存形成や副作用を抑制することができることを明らかにされ、がん疼痛治療に医療用麻薬を使用しても依存性が問題になることは殆どないことを示された。今回の講演は、医療関係者にとって医療用麻薬に対する誤解を払拭する大変内容の濃い有意義なセミナーであった。



講演される鈴木教授：平成22年10月18日(月)、千葉校舎第1教室

■「大学と同窓会クラス代表との懇談会」を開催

「第6回大学と同窓会クラス代表との懇談会」は平成22年10月21日(木)に水道橋校舎13階教室にて開催された。各卒業年次の同窓会クラス代表者ならびに同伴者約80名もの参加を得て、同窓の先生方からの大学に対する関心の深さを実感した。

本年は大学から熱田俊之助理事長、金子 譲学長、井出吉信副学長、柳澤孝彰副学長、一戸達也水道橋病院長が出席、同窓会からは大山萬夫会長、高橋義一専務理事に出席していただいた。

柳澤副学長による開会の言葉、続いて熱田理事

長、大山会長からのご挨拶の後、金子学長が「大学の現況」というテーマで、現在の歯科医学教育、歯学部定員問題、研究、大学の財務状況などについて資料を元に詳しく説明された。

続いて井出副学長から「水道橋移転・来年度入試」について説明が行われ、最後に一戸水道橋病院長から「新しい水道橋病院における教育・研修体制および同窓との連携体制」と題し説明があった。その後質疑応答を行い、予定時間を少々オーバーしたが、質問に対する回答には十分な理解を得て終了した。



懇談会で挨拶をする熱田理事長：平成22年10月21日(木)、水道橋校舎13階教室



「大学の現況」を説明する金子学長：平成22年10月21日(木)、水道橋校舎13階教室



熱心に質問をされる先生：平成22年10月21日(木)、水道橋校舎13階教室

懇談会終了後、東京ドームホテルに会場を移した懇親会では、年代を超えた参加者各位が和やかに歓談し、第6回大学と同窓会クラス代表との懇談会は盛会裡に終了した。



懇親会で談笑をされる先生方：平成22年10月21日（木）、東京ドームホテル42階「シリウス」

■第97回歯科医学教育セミナー開催

平成22年10月25日（月）午後6時より千葉校舎第2教室において、第97回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「授業技術を考える～多人数授業の工夫～ 実用『教育心理学』」と題し、京都外国語大学マルチメディア教育研究センターの梶川裕司教授をお招きし、講演を伺った。

はじめに、小学校での児童参加型授業から、中学・高校に進んだ時の講義形式中心の授業への変化に対応できない子どもが増えてきている状況（中1ギャップ）や、以前に学んだことが、時間の経過で抜け落ちてしまう「学力の剥落」といった、現在の教育問題について触れられた。それを踏まえた上で、学習参加型の授業と講義中心の授業の長所・短所を挙げられ、今回は講義＝多人数授業に焦点を当てて説明がなされた。

学生に、いかに学習内容に対する知的好奇心を喚起させるかが授業の究極の目的とされている。抽象的な内容を身近な話題に絡めるなどして具体的なものから理解させていくこと、黒板に書くことは学生の視覚に強かに訴えることができ、学生がそれを写すことでいやでも脳が情報処理するので黒板は優れた提示装置であること、黒板は学生が写しやすく理解しやすいように「絶対に写してもらいたい内容は左側を書く」など法則性のある板書をするなどの方が具体的に挙げられた。

次に、実際に梶川教授が講義で実践されている工夫が紹介された。上記以外では、毎授業の出欠、

小レポートの提示、学生に対する接し方に至るまで、幅広いものであった。

講義を担当されている先生方にとって、今後の授業に活用できる大変興味深い内容であった。当日は、約110名もの参加者が集まり、大変有意義なセミナーとなった。



講演される梶川教授：平成22年10月25日（月）、千葉校舎第2教室

■平成22年度第6回水道橋病院教職員研修会開催

平成22年10月25日（月）午後5時30分より、水道橋校舎13階B教室において、平成22年度第6回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「学術・教養に関する研修会」として、ご自身がろう者で手話講師、フリージャーナリスト、元歯科技工士の松田一志氏を講師にお迎えして、「ろう者とは？—手話でコミュニケーションする人々—」と題した講演を伺った。なお、手話通訳は今井りえ先生（本学大学院歯学研究科（小児歯科）修了）が担当された。

まず、ろう者の言語である日本手話は、日本語とは語彙も文法も異なる独自の体系を持つ視覚言語であることをわかりやすく説明された。また、ろう者の文化と聴者の文化や常識の相違について述べられた。ろう者は、アイ・コンタクト、アイ・コミュニケーション、指差し、ボディータッチなどを多用すること、数や時間の価値観に違いがあり、より具体的に表現することが必要なことなど、大変興味深い内容であった。

また、歯科受診の際に困っている点を具体的に例を挙げて説明された。予約や連絡はファックスやメールを受け付ける、呼び出しは当事者の傍に行き直接呼ぶ、振動呼出器の設置といったシステムの構築と、職員はマスクを外して話して欲しいといったろう者ならではの要望であった。当院で

も、できることから改善する必要があると考えさせられた内容で、参加者は終始熱心に聴講し、大変有意義な研修会であった。

なお、水道橋病院では今回の講師である松田、今井両先生による手話教室を、毎月1回開催して手話の普及に努めている。



講演される松田氏：平成22年10月25日(月)、水道橋校舎13階B教室

■第314回大学院セミナー開催

平成22年10月28日(木)午後6時より千葉校舎第2教室において、第314回大学院セミナーが開催された。今回は大阪大学大学院歯学研究科 口腔分子免疫制御学講座の天野敦雄教授を講師にお迎えして「宿主細胞をもてあそぶ歯周病菌」と題した講演を伺った。

まず、歯周炎の病因論について考察から始まり、慢性歯周炎の主要な病原体である *Porphyromonas gingivalis* に焦点を当て、その線毛の型による病原性の違い、本菌から遊離される vesicle の病原性について豊富なデータによる詳細な解説をしていただいた。さらに、本菌が持続的な炎症を引き起こす重要な因子となっている歯肉上皮細胞への侵入と、その後、次の細胞へ感染するメカニズム



講演される天野教授：平成22年10月28日(木)、千葉校舎第2教室

について説明していただいた。最先端の内容についての、解りやすいイメージを交えながらの講演は、非常に informative でありながら難しさを殆ど感じさせない大変有意義な1時間半であった。

■入試ガイダンス開催

本学への入学を希望する受験生を対象として、平成22年度入試ガイダンスが東歯祭期間中の平成22年10月31日(日)に午後1時より千葉校舎第1、2教室で開催された。

河田英司教務部長の挨拶の後、衛生学講座の杉原直樹准教授による「虫歯にならないお菓子な話」と題した模擬授業を行い、大学で学ぶ歯科医学専門科目に関する内容の一端を紹介した。続いて、入試概要、入試科目のポイントを説明した後、東歯祭実行委員長の星野立樹君(3年)、副委員長 山田朗寛君(3年)より、在学生として受験生へメッセージを送った。その後、CBT体験、大学案内、学生生活の説明、学内見学を行い、最後に希望者を対象に教務部・学生部の教職員との個別面談を実施した。学内見学では、臨床基礎実習室、解剖標本室、図書館、手術室、口腔インプラント科診療室などを回り、各所の教職員の協力のもとに、東歯大の伝統、貴重な史料や標本、充実した設備等を示すとともに、本学の無線LAN環境、CBT用PCの設置環境など充実した情報関係設備についても参加者に体験していただいた。

今後のガイダンスは、12月18日(土)に水道橋校舎で、実施する予定である。



受験生にメッセージを送る東歯祭実行委員長 星野君：平成22年10月31日(日)、千葉校舎第2教室

■第315回大学院セミナー開催

平成22年11月4日(木)午後6時より千葉校舎第2教室において、第315回大学院セミナーが開催

催された。今回は新潟大学医歯学総合病院非常勤講師の北村信隆先生を講師にお迎えし、「医歯学研究における統計学的データ解析の実際」と題した講演を伺った。

医歯学領域の研究は臨床的観察データのもつ特殊性、すなわち背景因子、予後因子そして交絡因子が結果として観察される臨床所見や測定値などにさまざまな影響を及ぼしている。そのため新たな統計学的概念や方法論が必要であり、PCの発展も相まってますます多彩かつ高度化してきた。そんな中、データ解析法の誤用や不適切な解釈などの問題も多く指摘されており、我々にとって正しい統計学的データ解析の知識と技術の修得は喫緊の問題となっている。

今回のご講演では、統計学の基本から実際的な応用に至るまでさまざまな実例も加えて示された。大変内容の濃い有意義な1時間30分のセミナーであった。



講演される北村先生：平成22年11月4日（木）、千葉校舎第2教室

■第316回大学院セミナー開催

平成22年11月5日（金）午後6時より千葉校舎第2教室において第316回大学院セミナーが開催された。今回は、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻・生化学分野の竹居孝二教授を講師にお迎えし、「細胞の形態変化はどのようにして起こるのか?」と題した講演を伺った。

竹居教授は昭和60年に東京歯科大学をご卒業の後、同病理学講座の大学院を修了され、直ぐにアメリカ、エール大学細胞生物学講座で12年間研鑽をつまされた。その間のご業績が認められ平成11年に岡山大学医学部から招かれ生化学の教授に就任された。先生のアメリカにおける研究生活の中で、1995年のNatureの表紙を飾るダイナミ

ンのご研究は大変有名で、今ではダイナミンの研究の第一人者として世界的にも有名である。

ご講演は大学院生が研究の進め方が理解できるようご配慮いただき、小胞輸送、微小管、および細胞骨格について解説された。講演要旨は細胞の形づくりが細胞間接着、チャンネル分子による内部環境の変動、細胞膜脂質と膜結合タンパクとの相互作用、細胞骨格の再編成、細胞内膜輸送など様々な因子が協調することで決定され、細胞走化、食作用、細胞分裂、細胞突起の伸長などが起こることを、動画を含む数多くのデータで示され難しい内容を分りやすく解説いただいた。1時間の講演後、質疑は30分に及び、メカニカルストレスや外来的な刺激に対してダイナミンはどのようなダイナミズムを示すのか、細胞伸長とGTPの関係、また微生物のリステリアが細胞内で動く時のアクチンの働きなどについて質問がなされた。さらに、先生が投稿される一流雑誌への投稿から受理に至る苦難の過程についてもお話いただいた。今回のセミナーでは大学院生にとって新たな研究へ示唆を与えていただいた。



講演される竹居教授：平成22年11月5日（金）、千葉校舎第2教室

■第317回大学院セミナー開催

平成22年11月9日（火）午後6時より千葉校舎第2教室において、第317回大学院セミナーが開催された。今回は、東北大学大学院歯学研究科 口腔保健発育学講座 小児発達歯科学分野の中村卓史准教授を講師にお迎えして「エピプロフィンの遺伝子同定からノックアウト、トランスジェニックマウスの歯の表現系の解析、そして乳歯歯髄幹細胞を用いた歯の再生医療への挑戦的プロジェクトについて」と題した講演を伺った。

近年、歯の発生過程に発現する多くの遺伝子が

同定され、それらの遺伝子の機能解明が行われている。講演では歯の発生に関わる新規遺伝子として、エピプロフィン (Epfn) を世界で初めて同定し、Epfnが歯の発生初期の歯堤に局限して発現するが、その後、内エナメル上皮およびエナメル芽細胞にも持続的に発現が認められ、歯の発生の後期になると神経堤細胞由来の間葉細胞から分化した象牙芽細胞にも発現が認められることを示された。次に、Epfnノックアウトマウスおよびトランスジェニックマウスを用いた解析から、Epfnは歯原性上皮がエナメル芽細胞へ分化するための必須の転写因子であり、歯数を決定する機構や組織を構成する細胞の増殖を制御していることを示された。今後は、Epfnの発現をコントロールすることにより、貴重な歯原上皮幹細胞を豊富にかつ効率よく調整することを可能にし、エナメル芽細胞分化を促進させ、歯冠や歯根の形態の制御、さらには再生させる歯の数を調節することを可能にできればと結論づけられた。

セミナー会場では基礎系、臨床系の教員、学生が聴講し、講演後には活発な質疑応答がなされ、多くの示唆を含む非常に有意義なセミナーであった。



講演される中村准教授：平成22年11月9日（火）、千葉校舎第2教室

■推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜、学士編入学試験実施

平成23年度推薦入学選考、帰国子女・留学生特別選抜が平成22年11月13日（土）午前9時より水道橋校舎と一般入学試験（I期）で以前から実施している大阪の天満研修センター、新規会場である福岡のTKP天神シティセンターの3会場において実施された。推薦入学選考（指定校制含む）では84名、帰国子女・留学生特別選抜では2名の志願者が集まり、午前中に小論文、小テスト、午後

には面接試験が行われた。学士編入学試験も平成22年11月13日（土）午前9時より水道橋校舎で実施され、24名の志願者があり、小論文・小テストおよび面接試験が行われた。学士編入学試験の合格者は、来年度の第2学年に編入する。なお、合格者には11月16日（火）に合格通知が発送された。

平成23年度一般入学試験（I期）・大学入試センター利用試験（I期）は、平成23年2月2日（水）に水道橋校舎および大阪（天満研修センター）、福岡（TKP天神シティセンター）の3会場において実施される。

■第318回大学院セミナー開催

平成22年11月19日（金）午後6時より千葉校舎第2教室において、第318回大学院セミナーが開催された。今回は千葉大学大学院医学研究院 高齢医学講座 麻酔学領域の磯野史朗准教授を講師にお迎えし「呼吸生理の理解に基づく睡眠時無呼吸の病態・診断・治療・予防：これからは、歯科医の皆さんが主役です」と題した講演を伺った。

睡眠中の呼吸状態の生理学的変化や睡眠時無呼吸症候群の病態や治療などを分かりやすく講演いただいた。特に磯野先生が作成された上気道の閉塞メカニズム：「anatomical balance model」は、骨格とその周囲の軟組織を天秤に例え、その支点の神経調整機構がバランスをとって呼吸活動を行っているという模式図で、アジア人は骨格的な要因が、欧米人は肥満の問題などで無呼吸症を発症していることを解説された。また、睡眠時無呼吸症候群の治療・予防として口腔内装置や矯正による上顎急速拡大、手術治療の症例を提示され、歯科と睡眠時無呼吸症候群との関連性をお話いただき、講演後には活発な質疑応答がなされ、非常に



講演される磯野准教授：平成22年11月19日（金）、千葉校舎第2教室

有意義なセミナーであった。

■がんプロフェッショナル養成プラン インテンシブコース「がん医療現場での口腔ケア」セミナーを市川総合病院で開催

平成22年11月19日(金)に、がんプロフェッショナル養成プラン(以下 本プラン)のインテンシブコースとして、「がん医療現場での口腔ケア」セミナーを開催した。本プランでは大学院生の教育と併行しインテンシブコースとして、医師も含めた医療スタッフに対して臨床のスキルアップを図るコースを設けることが要求されている。医療の現場での「口腔ケア」の重要性が認識され、特にがん医療では適切に口腔ケアを行うことで化学療法・放射線治療に際しての口腔粘膜炎、手術後の誤嚥性肺炎や消化管術後感染を予防あるいは症状が軽減することがわかっている。

今回は看護師・歯科衛生士を対象に、病棟看護に歯科大学としての特性を活かして口腔ケアを先駆的に取り入れている本学市川総合病院において、がん患者への口腔ケアの重要性と効果的方法を解説し、口腔ケアの実習を行うセミナーを開催した。参加者は本プランに参加している9大学、千葉県内がん拠点病院等に所属する看護師16名、歯科衛生士18名であった。井上 孝大学院研究科長の挨拶に続いて片倉 朗コーディネーターの進行で講義と実習が行われた。講義は山根源之教授(口腔がんセンター)、佐藤道夫准教授(外科学講座)、外木守雄准教授(オーラルメディスン・口腔外科学)が担当し、医療現場での歯科と医科の連携、がんの周術期管理における専門的口腔ケアの重要性、口腔ケアのエビデンスについて解説した。午後からは高柳奈見歯科衛生士(口腔がんセンター)、清住沙代歯科衛生士(市川総合病院歯科・口腔外科)を中心に口腔がんセンターと市川総合病院歯科・口腔外科のスタッフの協力のもと口腔ケアの相互実習を行った。

参加者からは、看護師と歯科衛生士の連携の重要性を認識し、実際の現場で適切な口腔ケアの方法とその効果を学習する大変良い機会となったとの声が多数寄せられた。また、市川総合病院での日頃からの口腔ケアへの取り組みも高く評価された。本セミナーは今後も年に1回継続して行い、症状に応じたケアの方法なども網羅したプログラ

ムを作る予定である。



気管内挿管を行っている患者への口腔ケアの実習：平成22年11月19日(金)、市川総合病院



セミナー参加者：平成22年11月19日(金)、市川総合病院

■平成22年度修学指導関係者・父兄個別面談会開催

平成22年度修学指導関係者・父兄個別面談会が平成22年11月20日(土)に千葉校舎で開催された。第1学年から第6学年の修学指導を必要とする学生を対象とし、保護者及び学生と学年主任(クラス主任)・副主任による3者面談方式で、実施された。

■金 亨俊君(第5学年)国際歯科研究学会日本部会(JADR)学術奨励賞を受賞

平成22年11月20日(土)・21日(日)に行われた第58回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会(九州歯科大学、北九州市)にて、第5学年(本学117期生)の金 亨俊君が“*Inflammatory regulation of voltage-dependent Na⁺ channels in dental pulp cells*”と題した演題で学術奨励賞を受賞した。

本賞は、歯学の発展に寄与する若手研究者の育成を目的として、38歳未満の者に与えられる賞である。推薦を受けた本賞応募者は、JADR学術大会に研究抄録を提出し、その抄録内容と、学術大会における研究発表内容・方法等が審査委員会によって採点され、得点上位者より授賞が決定す

るものである。本年の受賞者は5名であった。本賞の他候補の全員が大学院生もしくは大学教職員である中、金君は学生であるにも拘らず本賞の荣誉に輝いた事は特筆すべき事である。今回の研究は、歯髓細胞(象牙芽細胞分化能を有する)に発現する電位依存性Na⁺チャネルが、歯髓内の炎症性反応によって特異的に活性化され、病態生理学的な歯髓細胞機能を調節する重要な細胞膜タンパク質の一つであることを示した物で、金君の本学卒業論文(生理学講座)である。また、本研究結果は、歯髓細胞の増殖・分化・細胞機能を調節する新規薬剤開発の基礎をなす事で、歯学領域における医療技術発展の将来に寄与するものと考えられる。歯髓の病態生理機能解明にも大きな一歩を記したことになり、金君の今後の活躍が期待される。

また追記ながら、今回のJADR Travel Awardは、Seoul National University School of DentistryのDr. Chung Gehoonが受賞した。Dr. Chung Gehoonは、生理学講座 田崎雅和教授・澁川義幸講師との共同研究で10日間にわたり本学に滞在していたこともあり、二重の喜びとなった。また、写真に示すように、受賞の喜びを多くの学内外研究者と分かち合えた事は、学生である金君にとっても良い刺激であった。



左より、高野吉郎教授(JADR会長、東京医科歯科大学)、Dr. Chung Gehoon夫人、Dr. Chung Gehoon(JADR Travel Award受賞、ソウル国立大学歯学部)、Dr. Maria Fidela de Lima Navarro(IADR会長)、西原達次教授(JADR総会・学術大会長、九州歯科大学)、金君、小田豊教授(JADR前会長、本学歯科理工学講座)、佐野司教授(JADR理事、本学歯科放射線学講座)、澁川講師(本学生理学講座)

■山科光正大学院生 ポスター賞を受賞

平成22年11月21日(日)・22日(月)に神戸ポートピアホテルおよび神戸国際展示場(兵庫県)で開催された第49回日本臨床細胞学会秋期大会で、オーラルメディスン・口腔外科学講座の山科光正

大学院生が発表した「液状細胞診における口腔扁平上皮表層異型細胞の免疫細胞化学的検討」がポスター賞を受賞した。これは第49回日本臨床細胞学会秋期大会ポスター賞選定委員会の厳正なる審査の結果、優秀演題として採択された演題に授与されるものである。

受賞対象となった研究内容は、液状擦過細胞診により採取されたヒト口腔扁平上皮の上皮異形成や扁平上皮癌の表層・中層細胞の形態とCytokeratin13, 17を始めとした免疫細胞化学的染色性との関連についての検討を行い、免疫細胞化学が診断精度向上の手段として有効であるかを考察したものである。研究結果より、免疫細胞化学的手法は異型の乏しいライトグリーン好性の口腔扁平上皮表層・中層細胞と正常表層・中層細胞との鑑別に有用性が示唆された。口腔擦過細胞診では、口腔扁平上皮の上皮異形成や初期癌では採取されやすい表層・中層細胞に異型が乏しく、形態的鑑別に苦慮することも少なくないことから、臨床応用に向けた本研究の発展が望まれている。



受賞した山科大学院生：平成22年11月22日(月)、神戸国際展示場(兵庫県)

■平成22年度第7回水道橋病院教職員研修会開催

平成22年11月22日(月)午後5時30分より、水道橋校舎13階B教室において、平成22年度第7回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は、「医療安全に関する研修会」として、水道橋病院リスクマネージメント部会委員長である片倉朗准教授(口腔外科)と同部会委員である藤波弘州助教(総合歯科)がそれぞれ講演した。

片倉准教授は、世界一の医療機関と言われているアメリカの総合病院「メイヨークリニック」の優れた患者サービスについて記された著書「すべてのサービスは患者のために」の内容に基づき

「あるべき病院の環境」の具体例を提示され、全スタッフのパフォーマンス次第で患者サービスの価値が変わる、という考え方を背景に置きながら医療サービスを行う重要性について解説した。そして水道橋病院の理念「思い遣りの心に依る医療」を具現化していくための第一歩として行った、始業時の受付業務体制の改善について説明した。更に、院内に設置されている投書箱に寄せられた患者さんからの意見を数件例示し、スタッフ同士の情報伝達の重要性、思い遣りの心を持った対応を継続していく必要性について解説した。

引き続き、藤波助教が「あるべき病院の環境」の具体例の一つにある「医療安全のための身だしなみ」について解説した。コミュニケーションにおいて、相手が自分に対して持つ印象は、視覚情報が半数以上のパーセンテージを持つことを示し、一般的な社会人の身だしなみにおける注意項目について説明した。また、男性歯科医師、女性歯科医師、看護師、歯科衛生士、事務職員といった職種ごとの身だしなみの注意点について、写真を例示しながら解説した。なお、今般取りまとめた内容は、水道橋病院の「医療安全管理マニュアル」



講演する片倉准教授：平成22年11月22日(月)、水道橋校舎13階B教室



講演する藤波助教：平成22年11月22日(月)、水道橋校舎13階B教室

ル」の一部改訂として、後日全教職員に配付する予定である旨案内した。

今回の研修会では、全教職員の医療安全管理に関わる事項について明確な具体例を多数示された。日々の業務に直結する内容に対する参加者の関心も高く、皆熱心に聴講していた。

■第98回歯科医学教育セミナー開催

平成22年11月29日(月)午後6時より、千葉校舎第2教室において、第98回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「口腔外科学講座における学生教育に関する取り組み-医局改善ワークショップを通して-」と題し、口腔外科学講座の柴原孝彦教授、西堀陽平助教、薬師寺孝助教より報告が行われた。

はじめに、柴原教授より、平成15年と平成22年に実施した医局改善ワークショップの意義・概要について説明がなされた。続いて、薬師寺助教、西堀助教により今年の夏に実施したワークショップについて、外来部門・病棟部門に分け、特に「教育」の部分に焦点を当てて、報告がなされた。

薬師寺助教から、外来における問題として、医療安全面、衛生面、学生の能力面が挙げられた。医療安全に関しては、臨床実習準備期間に医療安全実習を実施することで対応することとした。衛生面、能力面に関しては、担当医一人に対し学生一人を割り当てる担当学生制度を導入し、また多くの先生方に教育担当をローテーション制にすることで、教員の意識を高めるとともに、きめ細やかな指導をすることで対応することとした。

続いて、西堀助教により病棟部門の報告がなされた。実習内容として、医療安全の観点から制限されてしまったものがある一方で、段階を踏んだ



報告する薬師寺助教：平成22年11月29日(月)、千葉校舎第2教室

実習や、手術の場に立ち会う機会を与えるなど、実習の一環として新たな試みを導入していることが紹介された。

こうした取り組みが実を結び、実習終了時に行われる臨床実習後学生評価において、ワークショップで取り上げた点に対し学生から高評価を受けている点が多々あった。一方で、まだ改善すべき点もあり、今後さらにこのようなワークショップを通じてさらなる教育の質向上につなげていくとのことであった。

■平成22年度医学教育等関係業務功労者表彰 (文部科学省) を受ける

市川総合病院 栄養士 橋本平光氏

市川総合病院 栄養士 高橋 了氏

歯学部・医学部及び附属病院等において、教育・研究・患者診療等に長期間従事し、顕著な功労があった者に授与される当該表彰において、本学から推薦された市川総合病院の橋本平光栄養士並びに高橋 了栄養士が、全国の大学より推薦さ

れた候補者の中から、今年度の受賞者として選ばれた。

橋本氏は、昭和46年4月より市川総合病院に調理師として入職後、栄養士に職種変更し、約39年にわたり栄養士業務である患者給食管理から栄養指導まで幅広く業務に従事してきた。平成4年の新病院の開院に向けては、システムの整備や人材の確保などの移行期に向けて調整を図るなど、今日の病院の発展に貢献した功績は大である。

高橋氏は、昭和46年6月より市川総合病院に炊事員として入職、調理師、栄養士と職種変更をし、約39年にわたり給食業務に携わってきた。どんな仕事も黙々とこなす性格で、病院においては、給食業務のプロジェクトを成功に導き、業務の発展に貢献し、千葉県栄養士会では、地区幹事として地区の病院と積極的に関わり栄養士の地位の向上に貢献してきた。

それぞれの立場において、他の職員の模範となり、病院の発展に貢献してきたことが高く評価され、今回の表彰となったものである。



表彰を受けた橋本氏：平成22年11月30日(火)



表彰を受けた高橋氏：平成22年11月30日(火)

トピックス

■第55回(社)日本口腔外科学会総会・学術大会開催

第55回(社)日本口腔外科学会総会・学術大会が、平成22年10月16日(土)から18日(月)に千葉市の幕張メッセで開催され、オーラルメディスン・口腔外科学講座山根源之教授が大会長、外木守雄准教授が準備委員長を務めた。学会のテーマは「国民の期待に応える口腔外科-専門性を基盤に連携医療を推進する-」で、第4回歯科衛生士研究会、第6回歯科・口腔外科看護研究会、AHA-BLSコー

スなどが併催された。また翌週の10月23日(土)には市民公開講座が開かれた。

初日に行なわれた特別講演はAAOMS position paper on BROJ-2009 update のtask force である Salvatore L Ruggiero 先生による「ビスフォスフォネート関連顎骨壊死」に関する歴史から現状まで最新の情報をお話いただいた。臨床で最も話題になっている内容の一つで会場は大変な盛況となった。また国立科学博物館の馬場悠男先生による「顔面構造の変化 ~はじめに口ありき~」と題

した教育講演と、これに引き続いてシンポジウム「睡眠時無呼吸症候群と口腔外科」が行なわれた。2日目にはシンポジウムが二つ用意され、一つは「口腔がん検診の現状と展望」と題したもので、歯科医師会と行政からの意見も含めた横断的な討論がなされた。もう一つは「わが国における Oral Medicine (口腔内科)の現状と口腔外科」と題したもので、先行して行なわれた招聘講演講師の Peter B. Lockhart 先生 (Chairman, Department of Oral Medicine, Carolinas Medical Center, USA) も加わり、フロアからの意見を交え活発な討議が行なわれた。3日目の朝には、新企画「Meet the Professor」が行なわれ、大会企画運営委員会で選んだ6名の名誉会員の方々から約10名の受講者に密着したお話をいただいた。また「早期口腔がんにおける診断・治療」と題した、日本臨床口腔病理学会と日本歯科放射線学会および本学会の関連3学会合同シンポジウムも行なわれた。会期中の示説発表では、ワイン&チーズと謳い、ワインを片手に和やかに討論が行なわれた。学会3日間を通しての参加人数は2,800名を超え、過去55回の歴史の中でも最高の参加数となり、演題総数は600題(口演313題、ポスター287題)であった。数字だけでなく会員が活発に意見交換を行なえた点も含め、有意義な学会となった。

翌週、市川総合病院講堂で小宮山彌太郎臨床教



主管担当したオーラルメディスン・口腔外科学講座の医局員と関係者による集合写真：平成22年10月18日(月)、幕張メッセ(千葉県)

授による「本当は怖くない歯科インプラント—安心して歯科インプラントを受けるための基礎知識—」と題した市民を対象とした講演会が行われた。マーケティングに重きが置かれている最近のインプラント治療に対する警鐘となる有益な内容であった。以上をもって全日程が終了した。

■故井上良和先生(本学同窓 昭和16年卒業)より大学へのご寄付

臨床検査学研究室 井上 孝教授のご尊父で、平成22年9月7日(火)ご逝去(享年93)された本学同窓 故井上良和先生(昭和16年卒業)におかれては、生前のご遺志として水道橋校舎施設整備のための募金へのご寄付を残され、11月19日(金)に法人理事長室にて井上教授より熱田俊之助理事長にご寄付の100万円が手渡された。

故井上先生は、これまでに行われた母校の寄付金募集事業に際しても、その都度において多額のご寄付をなされており、その多大なるご貢献に対して、大学から各ご寄付に対しての感謝状(大学創立資金寄付金(昭和25)、大学院設立資金(昭和33)、同窓会創立80周年記念募金(大学施設整備資金)(昭和56))を授与されている。ご寄付と併せてこれらの感謝状と故井上先生の写真が大学へ寄贈された。



故井上先生(陸軍中尉 昭和18年、於満州国)

海外交流

■台北医学大学口腔医学院院長が本学を表敬訪問

平成22年10月19日(火)に台北医学大学口腔医学院の歐 耿良院長と口腔衛生学の蔡 恒恵教授が

本学を表敬訪問された。台北医学大学は衛生士部門の強化を目指しているということで、金子 讓学長、井出吉信副学長、石井拓男歯科衛生士専門

学校長との会見の後、歐院長と蔡教授は、解剖学講座の阿部伸一教授の案内で大学ならびに歯科衛生士専門学校を見学された。



会談後の記念撮影：平成22年10月19日(火)、千葉校舎特別会議室

■延世大学校歯科大学病院職員来校

本学の姉妹校である延世大学校歯科大学の病院職員が平成22年11月25日(木)・26日(金)の2日間の日程で、大学および病院施設の見学ならびに相互交流を目的として来校された。来校者は教授1名、事務職員1名、看護師7名、歯科衛生士3名の合計12名であった。

25日は、千葉校舎を訪問した。午後2時にバスで到着し、午後2時10分より第1会議室において、歓迎式を開催した。浦田知明千葉病院庶務課長の司会進行のもと、高野伸夫千葉病院長による歓迎の挨拶の後、Hyoung Jun, Choi教授からご挨拶をいただいた。引き続き、各々の出席者が紹介され、記念撮影を行った。

式後、解剖標本室・大学史料室を見学し、当日講堂で開催された歯科衛生士専門学校の卒業研究発表報告会を見学した。休憩をはさみ、2つのグループに分かれて千葉病院の施設を見学しながら、看護師業務および歯科衛生士業務について活発なディスカッションを行った。午後5時からは第1会議室に戻り、記念品贈呈を行い歓迎式は滞りなく終了した。

その後、バスでサンルートプラザ東京へ移動し、午後6時30分より同9階のサンセットルームにおいて、懇談会を開催した。両病院の職員は杯を傾けながら心ゆくまで懇親を深め、大変有意義なひとときを過ごした。なお、当日は韓国からの留学生である崔允栄臨床専門専修科生(歯科矯正学講座)が通訳を務め、両病院の親善に尽力された。

翌日の26日は、水道橋病院を訪問した。午前9時45分より水道橋校舎13階B教室にてお迎えし、一戸達也水道橋病院長の歓迎の挨拶に続き、Hyoung Jun, Choi教授からご挨拶をいただいた。続いて記念品の贈呈を行い、両病院の教職員がそれぞれ自己紹介を行ったあと久保周平小児歯科科長の案内により、各科診療室および病棟を見学した。見学後は再び13階B教室に戻り、鈴木福代看護師長・上島文江歯科衛生士長による、水道橋病院看護部の役割や患者サービスへの取り組みおよび歯科衛生士部の医療安全管理等についてのプレゼンテーションの後、両病院教職員により活発なディスカッションを行った。

2日間に渡って職員同士の交流を図ったことで、相互理解が深まり、大変有意義な2日間であった。



歓迎式後の記念撮影：平成22年11月25日(木)、千葉校舎第1会議室



水道橋病院診療室の見学：平成22年11月26日(金)、水道橋病院口腔外科診療室

西村正雄名誉教授ご逝去



本学名誉教授西村正雄先生(衛生学講座)は、平成22年(2010年)10月27日、心不全のため逝去された。享年85歳。

西村先生は、昭和22年3月東京歯科医学専門学校を卒業、同年4月より研究科に入学、同23年3月研究科を修了した。同28年9月より本学の副手、同29年4月助手、同31年9月講師、同33年4月に助教授に昇任した。その間、同32年2月に慶應義塾大学より医学博士の学位を受領した。同46年4月に衛生学講座教授に昇任、同50年3月より講座主任となった。平成2年11月に定年退職され、東京歯科大学名誉教授の称号を授与された。

専門分野においては、特に化学物質の毒性評価に関する基礎的研究で食品汚染問題を起こした残留農薬の残留許容量を提起し、その確立と農薬使用法の指導などの対策で大きな功績を残されました。毒物・劇物指定令の整備ならびに特別管理廃棄物処理基準策定に参画し、国際法に適合した国内法の策定のための検討をされました。46年前には純唾液を環境汚染物質のモ

ニタリングに用いることなど、極めて先駆的研究もされております。日本歯科医学会では歯科領域で用いられている化学物質を安全に使用するための手引を作成されました。昭和31年日本口腔衛生学会幹事、同52年学会長、同56年常任幹事、同63年幹事長に就任し、日本口腔衛生学会における主導的役割を果たされました。これらの功績により平成18年4月29日に瑞宝小綬章を叙勲され、平成22年10月には従五位を授けられました。

学内においては、指導学位論文が45編あり、大学院生の教育および後進指導者の育成に尽力され、研究施設と機器整備を系統的に改革し、さらに大学および病院の環境安全面での管理に意欲的に取り組まれました。

このように深く広い専門的知識および技能と信頼される人間性をもって困難な問題の解決にあたり、学際的研究による新しい学問分野の進展と口腔保健の向上のために歯科界に多大な貢献をされた西村先生に敬意を表し、心より冥福をお祈り申し上げます。

(松久保 隆)

学生会ニュース

■第33回東京歯科大学管弦楽団定期演奏会開催

「第33回定期演奏会を終えて」

松本亜弓(4年)

東京歯科大学管弦楽団定期演奏会は今年33回目を迎え、平成22年11月21日(日)に実施し、無事に終了することが出来ました。

本定期演奏会は、年によって演奏のプログラムが変わり毎年著名なバイオリニストやピアニストがゲストとして出演されることも大きな魅力の一つとなっております。例年定期演奏会は、11月23日の祝日に実施しておりましたが、今年は日程が変更されたにもかかわらず、300人を超える近隣住民の方々が私たちの演奏を聴きに足を運んでくださいました。私が経験した演奏会のなかで

最高の来客数であったことはとてもうれしく思いました。

今回はコンチェルトにバイオリニストの岩田慶子



バイオリニスト岩田さんとの協演：平成22年11月21日(日)、千葉校舎講堂

さんをお迎えし、ブルッフのバイオリンコンチェルトを演奏しました。岩田さんはレベルがとても高く、オケ全体にとってもいい刺激となりました。また、プログラムのメインは、「運命」という名で有名なベートーベンの交響曲第5番を演奏しました。誰しもが一度は耳にしたことのある曲への挑戦だけにミスは許されず緊張でいっぱいになりましたが、部員一人一人が一体となって今まで以上に練習に気合が入りました。練習の成果もあって演奏会本番では、個々のパートを全うして練習の何倍も良い演奏をすることができ、大成功に繋がりました。

来年も更に良い演奏ができるように更に練習に励みたいと思います。



第33回定期演奏会の風景：平成22年11月21日(日)、千葉校舎講堂

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

新谷誠康 [ほか] 編著 小児の歯科治療:診察・検査・診断 永末書店 2010

山根源之[ほか]編集 医師・歯科医師のための口腔診療必携 金原出版 2010

宮内 潤[ほか]編集 骨髄疾患診断アトラス 中外医学社 2010

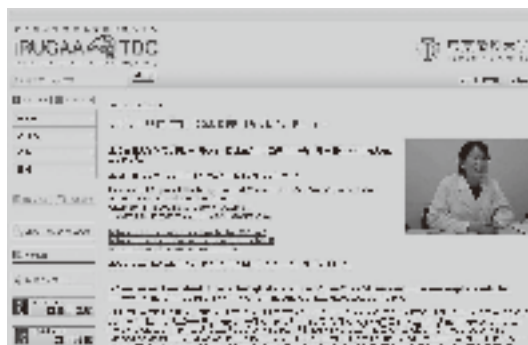
○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、図書館へ、ご一報くださいますようお願いいたします。

■オープンアクセスウィーク開催

平成22年10月18日(月)から24日(日)にかけて、米国SPARCが主催するイベント「オープンアクセスウィーク(Open Access Week:OAW)」が開催された。日本国内ではデジタルリポジトリ連合(Digital Repository Federation:DRF)が中心となり、多数の大学で様々なイベントが催された。本学においても、東京歯科大学学術機関リポジトリへの学術雑誌論文原稿提供が200件に達した記念に、生化学講座・柴山和子助教に掲載論文に関する研究内容やオープンアクセス、機関リポジトリなどについてのインタビュー (<http://ir.tdc.ac.jp/>参照)を行った。また、オープンアクセスについて学内に広くアピールするために△スタンドを厚生棟食堂に設置した。

・それでオープンアクセスって？

インターネットを通じて研究成果を無料で公開し、世界の人々が、対価なくこれを楽しむようにすることです。



(<http://ir.tdc.ac.jp/>参照)



オープンアクセス アピール△スタンド：平成22年10月19日(火)、千葉校舎厚生棟食堂

■図書データの遡及入力委託について

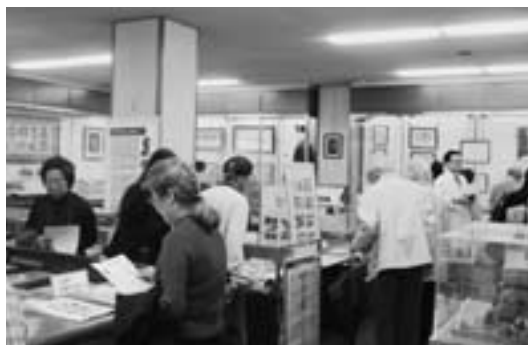
水道橋への移転を控え、図書館所蔵データをどこからでも検索できるようにするため、所蔵データの遡及入力作業を業者へ委託した。現在作業を進めており、今年度中に洋書4,000冊の入力を終える予定。来年度以降も継続して作業を進めることを計画中である。

〈大学史料室から〉

■東歯祭で、大学史料室を一般公開

東歯祭が開催された平成22年10月30日(土)・31日(日)の2日間、例年どおり図書館1階にある大学史料室を一般公開した。今年本学は創立120周年を迎えた記念の年にあたり、ロビーの展示ケースには120周年記念式典・祝賀会で配られた記念品を、史料室では120周年記念式典・祝賀会で外国の姉妹校等から戴いた記念品を展示した。

さらにロビーでは、120周年記念DVDの上映も行なった。30日は、季節はずれの台風14号が関東地方に近づき、夕方には最接近とあいにくの天候で、史料室の展示も30分繰り上げて終了した。翌31日もすっきりしない天気であったため、来場者数は昨年を下まわり約200名だった。来場者の多くは熱心に展示史料をご覧になり、概ね好評であった。



史料室公開風景：平成22年10月30日(土)、千葉校舎図書館史料室

歯科衛生士専門学校ニュース

■歯科衛生士専門学校登院式挙行

東京歯科大学歯科衛生士専門学校第61期生の登院式が、平成22年10月1日(金)午前11時から千葉校舎第2教室において、高野伸夫千葉病院長、尾谷始子歯科衛生士長の臨席のもと、第1学年と第3学年の学生全員が列席する中で挙行された。

杉原直樹学生部長の司会のもと、高橋俊之副校長の呼名により、61期の登院生一人ひとりが紹介された。はじめに石井拓男校長より臨床実習に臨む心構えについて訓辞を受けた後、来賓として臨席された高野千葉病院長からの訓辞があった。

その後、登院生42名を代表して三上香澄さんが誓詞を述べ、登院生全員がこれに唱和して式を終了した。



登院式が終わった後の記念撮影：平成22年10月1日(金)



緊張した面持ちで訓辞を聞く登院生：平成22年10月1日(金)、千葉校舎第2教室

■平成23年度推薦入学選考実施

歯科衛生士専門学校の平成23年度推薦入学選考が、平成22年10月28日(木)に千葉校舎において実施された。募集人員40名の過半数を推薦入学により入学させるものであり、本年は、高等学校長の推薦により63名(県内から58名、他県から5名)、また、平成21年度から始めた社会人特別選抜には7名(県内から7名、他県から0名)、合計70名が受験した。選考内容は、高等学校長

の推薦では、書類審査と基礎学力検査および面接であり、社会人特別選抜では、自己推薦書および書類による審査と、小論文および、面接であった。入学選考は、午前9時30分より開始し、午後3時40分にはすべて終了した。

合格の発表については、10月29日(金)に開かれた選考委員会で決定され、同日付けで出身高等学校長および、受験生本人に通知された。

受験者数の推移については、本年度は、昨年度の実績(高等学校長の推薦51名、社会人特別選抜9名の合計60名)と比較しても、10名もの増加があった。これは、平成21年度より開始した指定校推薦の継続と県内高校の指定校数の増加、積極的な学校訪問と学校説明会の開催などの効果が出ているように思われる。3年制の歯科衛生士教育への完全移行や、昨今の厳しい経済状況とそれにとまなう就職難という社会状況の中、国家試験合格率100%、就職率100%を誇る本校の実績が高く評価されているものと考えられる。

■歯科衛生士専門学校第60期生修学旅行

東京歯科大学歯科衛生士専門学校第3学年(第60期生)は、11月14日(日)・15日(月)の1泊2日の日程で栃木県湯西川温泉へ修学旅行に出かけた。

朝9時、前日に模擬試験や前々日には、卒業論文を提出したとは思えない賑やかさで、修学旅行はスタートした。バスは千葉校舎を出発し、早速、DVD観賞会が開始された。残念ながら今回の修学旅行に参加できなかった仲間が大好きな、嵐の相葉くんから始まり、AKB48、加藤ミリヤ、東方神起、EXILE…とバスの中で熱狂は続いた。

初日の目的は、昼食の餃子と日光東照宮での特別参拝。餃子は、宇都宮駅前を餃子マップ片手に様々なお店を食べ歩いた。その2時間後には、日光東照宮に到着した。日光東照宮は、パワースポットとしても有名だが、黄色やオレンジ、赤に彩られた紅葉を見に沢山の参拝客がいた。そんな中、60期生は、巫女さんの案内の下、眠り猫などを見学しながら境内を散策、その後2月下旬に実施される国家試験の合格を全員で祈願した。ご祈祷中の学生は、緊張した面持ちで、バスの中の学生とは別人のようであった。

楽しい1日を過ごし、夕方に宿泊先の湯西川温

泉「かめや平家の庄」に到着した。

到着後、浴衣の選択ができ、学生は様々なデザイン浴衣から気に入った物を選び、早速、袖を通していった。また、夜はお楽しみの大宴会が行われた。宴会は囲炉裏を囲みながら平家伝統の郷土料理とお酒を楽しみながら大いに盛り上がった。温泉も14ヶ所の露天風呂を中心に日頃の疲れを癒し、国家試験に向けての充電を行うことができた。

2日目は、日光木彫りの里工芸センターにて日光彫りを体験した。講師2名のレクチャーを受けながらだったが、歯科衛生士のたまごとして日頃から細かい作業には慣れているせいか、みんな素敵な作品を完成させていた。



日光東照宮参拝：平成22年11月14日(日)



かめや平家の庄にて：平成22年11月15日(月)



日光木彫りの里工芸センターにて日光彫りを体験：平成22年11月15日(月)

その後は、全員揃っての昼食やチーズケーキが有名だという明治の館などに寄り、お土産を買ったり、写真撮影をしたりと楽しい時間を過ごした。

1泊2日という短い時間ではあったが、笑顔の絶えない貴重な時間を過ごす事ができた。これから卒業試験や国家試験など3年間の総まとめとなる重要な時期となるが、体調管理に留意し頑張ってもらいたいと思う。

■第60期生卒業研究論文発表会開催

東京歯科大学歯科衛生士専門学校では、3年制教育への移行に際して、卒業研究論文の作成を独自のカリキュラムとして取り入れた。この卒業研究を通して、学生たちには問題発見、問題解決能力を高めることを期待している。具体的には、普段の生活や講義、実習で、疑問を持っていることの中から研究テーマとなるものを探しだし、この問題について詳細に調べ問題点を解決するべく、東京歯科大学の各講座研究室および歯科衛生士専門学校に出かけ、卒業研究論文担当の諸先生のご指導により、2年以上の時間をかけて、資料を調べ、論文を読み、試行錯誤しながら、研究の立案や研究方法を選択し、そして実際の実験やフィールド調査などをおこなってひとつの論文にまとめ上げるのである。

第5回目卒業研究の今回は、第60期生全員の研究がまとめられ、307ページにおよぶ厚い卒業研究論文集として発行された。また11月25日(木)には、歯科衛生士専門学校の第1学年、第2学年、第3学年の全員と、論文指導の諸先生やその他の参加者を集め、東京歯科大学千葉校舎の講堂にて卒業研究発表報告会が開催された。

発表報告会は、学会形式をとり、受付から、座長、タイムキーパーなどの役をすべて3年生が運営しておこなわれた。午前9時、石井拓男校長の開催挨拶につづき、6分間のPowerPointによるプレゼンテーションと2分間の質疑応答が始まった。自分の研究を自信を持って発表する姿や、フロアからの質問に緊張しながら答える姿は新鮮で、3年間の学生生活の総まとめとしてとても印象的であった。

研究テーマは、基礎から臨床の広い範囲にわたっており、ブラッシングや歯磨剤、フッ化物やホワイトニングなど口腔ケアが歯の微細構造に与

える影響や、プラークの細菌学的研究、歯科材料、顎機能や食習慣、味覚、さらにさまざまな角度からのフィールド調査など多彩で興味の持てるものであった。

はじめの頃は先が見えず、不安がいっぱいの学生たちが、時間をかけて論文が形となっていき、論文集となり、その研究成果を多くの聴衆の前で発表することを通して、大きな達成感を得て行く過程は、学生たちの成長そのものである。この貴重な体験は、卒業後の臨床の場においても大きな自信となって学生たちに返ってくるのではないだろうか。

今回の卒業論文は、東京歯科大学の阿部伸一、石原和幸、古賀 寛、柴原孝彦、新谷誠康、末石研二、田崎雅和、角田正健、橋本真充、橋本正次、服部雅之、眞木吉信、松久保 隆、山中すみへの各先生そして歯科衛生士専門学校の高橋俊之、杉山哲也、杉原直樹、杉山節子、白鳥たかみ、永井由美子、多田美穂子、城川明日香、江口貴子の各講師が、長時間にわたり親身になって指導していただいた結果であり、学生たちにとっても大変思い出深い経験であり、社会に出てからの大きな自信となると信じている。

長時間にわたる研究発表報告会は、総評のあと全員で記念撮影をおこない、終了となった。その後、食堂の2階でささやかな懇親会が開かれ、なごやかで楽しい時間を過ごし閉会した。



卒業研究論文発表会終了後の達成感のなかでの集合写真：平成22年11月25日(木)、千葉校舎講堂

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

- 石井 裕理事長 他3名(医療法人社団 石井歯科)
平成22年10月7日(木)病院見学
- さいたま赤十字看護専門学校(学生45名、教員3名)
平成22年10月8日(金)解剖学実習室見学
- 三河歯科衛生専門学校(学生39名、教員3名)
平成22年10月29日(金)標本室見学
- 関東鍼灸専門学校(学生32名、教員4名)
平成22年11月5日(金)解剖実習室、標本室見学
- 旭川歯科学院専門学校(学生35名、教員3名)
平成22年11月18日(木)標本室、病院見学
- 横浜市立盲特別支援学校(学生31名、教員10名)
平成22年11月26日(金)解剖実習室・標本室見学

市川総合病院

- 一葉福祉学院介護福祉学科(学生10名)
平成22年10月20日(水)病院見学
- 愛知学院大学歯学部付属病院(教員5名、職員2名、コンサルティング会社4名)
平成22年11月4日(木)医療情報システム見学
- 杏林大学保健学部(学生5名、教員2名)
平成22年11月11日(木)角膜センター・アイバンク見学

■海外出張

- 矢島安朝教授(口腔インプラント)
2010台湾口腔臨床インプラント学会で特別講演のため、10月1日(金)から4日(月)まで、台湾・台北へ出張。
- 阿部伸一教授(解剖)
台北医科大学において歯学部5年生にインプラント学の講義を行うため、および南台湾インプラント学会において講演のため、10月2日(土)から5日(火)まで、台湾・台北へ出張。
- 安藤暢敏教授(市病・外科)
American College of Surgeons 96th Annual Clinical Congressに参加のため、10月5日(火)から10日(日)まで、アメリカ・ワシントンDCへ出張。
- 新谷誠康教授、櫻井敦明助教(小児歯科)
中国第四軍医大学主催Children Occlusive Guidanceに参加、および講演のため、10月12日(火)から14日(木)まで、中国・西安へ出張。
- 篠崎尚史講師・センター長(市病・角膜センター)
アメリカアイバンク協会定例会議に出席のため、10月13日(水)から17日(日)まで、アメリカ・シカゴへ出張。
- 小坂橋俊哉教授、大内貴志講師(市病・麻酔)
American Society of Anesthesiologists Annual Meeting 2010に参加、および発表のため、小坂橋教授は10月16日(土)から21日(木)まで、大内講師は15日(金)から19日(火)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張。
- ピッセン弘子教授、吉野真未助教、大島キャサリン事務員(水病・眼科)
American Academy of Ophthalmologyに参加、および発表のため、ピッセン教授は10月16日(土)から20日(水)まで、吉野助教は15日(金)から21日(木)まで、大島事務員は14日(木)から20日(水)まで、アメリカ・シカゴへ出張。
- 櫻井 学講師(歯科麻酔)
American Society of Anesthesiologists Annual Meeting 2010に参加、および発表のため、10月16日(土)から20日(水)まで、アメリカ・サンディエゴへ出張。
- 山田将博助教(有床義歯補綴)
BIT Life Sciences' 8th Annual Congress of International Drug Discovery Science and Technologyで発表のため、10月22日(金)から26日(火)まで、中国・北京へ出張。
- 末石研二教授(歯科矯正)
重慶医科大学にて講演のため、10月24日(日)から28日(木)まで、中国・重慶へ出張。
- 高松 潔教授(市病・産婦人科)
第16回国際女性心身医学会に参加、および発表のため、10月27日(水)から11月1日(月)まで、イタリア・ベニスへ出張。
- 洪川義宏准教授(歯周病)
トーマスジェファーソン大学にて研究打ち合わせ、および第96回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会2010年大会で発表のため、10月27日(水)から11月4日(木)まで、アメリカ・フィラデルフィア、およびハワイへ出張。
- 石上恵一教授(スポーツ歯科)
客員教授としてKyung Hee Universityにてスポーツ歯学に関する臨床講義のため、およびアジアスポーツ歯科医学会設立に関する打ち合わせのため、10月28日(木)から31日(日)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 齋藤 淳講師、藤波弘州助教、早川裕記レジデント、大田 恵レジデント、柳田博子レジデント(水病・総合歯科)
第96回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会2010年大会に参加、および発表のため、10月29日(金)から11月4日(木)まで、アメリカ・ハワイへ出張。
- 山田 了教授、太田幹夫講師、藤田貴久助教、勢島 典レジデント、中西万理子レジデント(歯周病)、渡邊直子助教(千葉病院)
第96回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会2010年大会に参加、および発表のため、10月30日(土)から11月4日(木)まで、アメリカ・ハワイへ出張。
- 新井 健准教授(市病・リハビリテーション科)
11th Triennial Congress of the International Federation of Societies for Surgery of the Handに参加、および発表のため、10月31日(日)から11月5日(金)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 津坂憲政准教授(市病・内科)
2010 American College of Rheumatology Annual Meetingに参加、および発表のため、11月7日(日)から13日(土)まで、アメリカ・アトランタへ出張。
- 眞木吉信教授(社会歯科)
9th International Conference of Asian Academy of Preventive Dentistryに参加のため、11月8日(月)から12日(金)まで、マレーシア・クアラルンプールへ出張。
- 佐野 司教授(国際渉外部)
The 8th Asian Congress of Oral and Maxillofacial Radiologyにて、延世大学校とのElective Studyの打ち合わせのため、11月12日(金)から16日(火)まで、韓国・ソウルへ出張。

- 櫻井 薫教授(有床義歯補綴)
The 6th Congress of the Asian Academy of Osseointegrationに座長として参加のため、11月12日(金)から14日(日)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 矢島安朝教授、佐々木穂高助教(口腔インプラント)
The 6th Congress of the Asian Academy of Osseointegrationに参加、および発表のため、11月12日(金)から14日(日)まで、韓国・ソウルへ出張。
- 内山健志教授、須賀賢一郎講師、村松恭太郎助教(口腔外科)、半田俊之講師(水病・歯科麻酔)、松浦信幸助教(歯科麻酔)、許斐玲子絵看護部長(千葉病院看護部)ベトナム社会主義共和国にて口唇口蓋裂児を中心とする口腔先天異常疾患患者への医療援助、技術指導、および学術調査のため、11月14日(日)から、内山教授、須賀講師、村松助教、半田講師、松浦助教は27日(土)まで、許斐絵看護部長は20日(土)まで、ベトナム・ホーチミン、およびファンティエットへ出張。
- 森下鉄夫教授(水病・内科)
第10回記念日本-ボリビア国際消化器シンポジウムに参加、および講演のため、11月16日(火)から24日(水)まで、ボリビア・サンタクルスへ出張。
- 山内智博講師(口腔外科)
第10回記念日本-ボリビア国際消化器シンポジウムに参加、および発表のため、11月16日(火)から24日(水)まで、ボリビア・サンタクルスへ出張。
- 野村武史講師、恩田健志助教、河地 誉大学院生、田村直樹大学院生(口腔外科)
9th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgeryに参加、および発表のため、11月23日(火)から、野村講師、河地大学院生は28日(日)まで、恩田助教、田村大学院生は29日(月)まで、マレーシア・クアラルンプールへ出張。
- 山根源之教授、外木守雄准教授、野口沙希大学院生、齋藤寛一大学院生(オーラルメディシン)、佐藤一道講師(口腔がんセンター)
9th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgeryに参加、および発表のため、11月25日(木)から12月1日(水)まで、マレーシア・クアラルンプールへ出張。
- 高野正行准教授、弓井恵里レジデント(水病・口腔外科)
9th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgeryに参加、および発表のため、11月25日(木)から29日(月)まで、マレーシア・クアラルンプールへ出張。

大学日誌

平成22年10月

- 1(金) 1～4年生後期授業開始
大学院入学試験(1期)願書受付開始(～11/26)
平成23年度予算編成打ち合わせ
歯科衛生士専門学校登陸式
防火・防災安全自主点検日
- 4(月) 第6回補助金管理運営会議
プログラム責任者・副責任者会議
歯科衛生士専門学校1年生後期授業開始
ICTランチタイムセミナー(～7日)(水病)
教職員研修会(水病)
理事会(法人)
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 5(火) 学生部(課)事務連絡会議
歯科衛生士専門学校2年生臨床実習開始
- 6(水) リスクマネージメント部会
ICT会議
千葉校舎課長会
衛生委員会
- 7(木) 感染制御委員会(水病)
治験審査・倫理委員会(水病)
- 8(金) 大学院運営協議会
ICT委員会(水病)
感染予防対策チーム委員会(水病)
- 12(火) 教務部(課)事務連絡会
- 13(水) 大学院運営委員会
大学院研究科委員会
看護部運営会議(水病)
業務改善委員会(水病)
救急委員会(水病)
ICU運営委員会(水病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
医療機器安全管理委員会(水病)
- 14(木) 医療安全管理委員会(水病)
手術室運営委員会(水病)
- 15(金) 環境清掃日
危険物・危険薬品廃棄処理日
- 16(土) 第290回東歯学会(総会)
患者サロン(がん患者・家族対象)(水病)
午後のリサイクル(水病)
- 18(月) 教養科目協議会
第313回大学院セミナー
- 18(月) 医療安全研修会
- 19(火) 臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
褥瘡対策委員会(水病)
- 20(水) 機器等安全自主点検日
- 21(木) 千葉校舎課長会
高度・先進医療委員会
部長会(水病)
- 22(金) クリニカルパス委員会(水病)
- 23(土) 平成23年度第8回看護師採用選考試験
- 25(月) 6年生第3回総合学力試験(～26日)
病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
医療連携委員会
第97回歯科医学教育セミナー
NST会議(水病)
電子カルテシステム運用管理委員会(水病)
- 26(火) データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
医療サービスに関する検討会
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病)
- 27(水) 看護部運営会議(水病)
データ管理者会議(水病)
病院連絡協議会・診療録管理委員会(水病)
- 28(木) 振替授業(月曜日分)
1～6学年インフルエンザ接種
業務連絡会
第314回大学院セミナー
歯科衛生士専門学校推薦入学選考
管理診療委員会(水病)
- 29(金) 総合講義検討委員会
歯科衛生士専門学校推薦入学選考委員会
災害対策実施部会(水病)
- 30(土) 第42回東歯祭(～31日)

31(日)	入試ガイダンス	11(木)	第6回補助金管理運営会議 業務連絡会 医療安全研修会 医療安全管理委員会(市病) 手術室運営委員会(市病)
平成22年11月		12(金)	ICT委員会(市病)
1(月)	推薦入学選考 帰国子女・留学生特別選抜・ 学士編入学試験願書受付開始(～9日) 創立120周年記念学生関係行事[於:東京ベイ幕張] プログラム責任者・副責任者会議 防火・防災安全自主点検日 薬事委員会(市病)	13(土)	推薦入学選考 帰国子女・留学生特別選抜・ 学士編入学試験
2(火)	教務部(課)事務連絡会 第7回不正防止推進室打合せ 臨床教育委員会(臨床と基礎)作業部会	14(日)	歯科衛生士専門学校3年生修学旅行(～15日)
4(木)	リスクマネージメント部会 ICT会議 第315回大学院セミナー 感染制御委員会(市病) 治験審査委員会・倫理委員会(市病) 口腔健康臨床科学講座会(水病)	15(月)	公認会計士中間監査[大学・千葉病院・歯科衛生士専門学校](～19日) 図書委員会 環境清掃日 危険物・危険薬品廃棄処理日
5(金)	大学院運営協議会 第316回大学院セミナー 感染予防対策チーム委員会(水病)	16(火)	臨床教授連絡会 講座主任教授会(推薦・帰国・留学生、学士編入学判定含む) 人事委員会
8(月)	1～6学年インフルエンザ接種 病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 臨床教育委員会 医局長会 公認会計士中間監査(～12日)(市病) 地域連携委員会(市病) 東京都エイズ診療従事者臨床研修(第1日目)(水病)	18(木)	千葉校舎課長会 高度・先進医療委員会 部長会(市病) 医療ガス安全管理委員会(市病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 科長会(水病)
9(火)	推薦入学選考 帰国子女・留学生特別選抜・ 学士編入学試験願書受付締切 第317回大学院セミナー 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会 褥瘡対策委員会(市病) 東京都エイズ診療従事者臨床研修(第2日目)(水病)	19(金)	第318回大学院セミナー 医療連携協議会 理事会(法人)
10(水)	基礎教授連絡会 千葉校舎課長会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 衛生委員会 看護部運営会議(市病) 業務改善委員会(市病) 救急委員会(市病) ICU運営委員会(市病) リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会(水病) 医薬品安全管理委員会(水病) 医療機器安全管理委員会(水病)	20(土)	修学指導関係者・父兄個別面談会(1～6年) 平成23年度第9回看護師採用選考試験(市病) 午後のコンサート(市病) 機器等安全自主点検日 公認会計士中間監査[法人・水道橋病院](～26日)(法人)
		22(月)	機器等安全自主点検日 公認会計士中間監査[法人・水道橋病院](～26日)(法人)
		24(水)	看護部運営会議(市病) 病院連絡協議会・診療録管理委員会(水病)
		25(木)	管理診療委員会(市病) 電子カルテシステム運用管理委員会(市病)
		26(金)	大学院入学試験(1期)願書受付締切 クリニカルバス委員会(市病) 災害対策実施部会(市病)
		27(土)	市病フォーラム2010(市病)
		29(月)	教養科目協議会 第98回歯科医学教育セミナー NST会議(市病) NST勉強会(市病)
		30(火)	薬事委員会 データ管理者会議 カルテ整備委員会 診療記録管理委員会

【訂正】 第244号の記事中に次の間違いがありましたので、お詫びして訂正致します。
39頁 右段15行目 (誤)竜 正大大学院生 → (正)竜 正大助教

東京歯科大学広報 編集委員

橋本貞充 (委員長)

石塚順子 井上直記 上田貴之 内田篤志 王子田 啓 金安純一 狩野龍二 齋藤 淳 椎名 裕
新谷益朗 高橋俊之 中村弘明 日塔慶吉 旗手重雅 前田健一郎 百崎和浩
(平成22年11月現在)

編集後記

東京歯科大学創立120周年を締めくくる、「創立120周年記念学生行事」が、幕張ベイサイドで開催されました。東京歯科大学の1年生から6年生までの全学生が会場のホールに整然と着席する様は、実に壮観です。同時に、これだけの学生達ひとり一人が、それぞれの頑張りの中で年数をかけて大学を卒業し、優れた歯科医師として社会へ出て行くことを考えたとき、一人の歯科医師が誕生するまでにかげられる、学生の努力とそれを支えるたくさんの教職員のエネルギーの大きさに、圧倒される思いがしました。

5月に開催された創立120周年記念学術講演会のインターナショナルで学術的な雰囲気、続いておこなわれた創立120周年記念式典・祝賀会の厳粛な空気、そして、これらとは対照的な和やかで楽しい若い人達の熱気の中で開かれた記念学生行事……。3つの大きなイベントとそれに付随するさまざまな企画があってはじめて、創立120周年という大きな節目をしっかりと記憶できたのではないのでしょうか。

大型台風が直撃した雨と風のなか、第42回東歯祭がおこなわれました。前日の準備も初日も大荒れの天気の中、屋外で模擬店も開くことができない状況でも、学生達は持ち前の創意工夫で東歯祭を盛り上げていました。東歯祭実行委員長の3年生星野立樹君の言葉にあるように、悪条件が重なり苦労しながらも、多くの仲間が協力し、一緒に東歯祭を成し遂げたからこそ、「やっていた良かった」という一言が、みんなの共通した思いとなったのでしょうか。

市川総合病院では、かんプロフェッショナル養成プランの中で、「がん医療現場での口腔ケア」のセミナーが開かれました。大学やがん拠点病院に所属する学内外の看護師と歯科衛生士34名を集め、歯科大学付属の総合病院を持つ東京歯科大学の特性を生かし、医療現場での歯科と医科との連携、専門的口腔ケアの効果と重要性などについて、講義と実習がおこなわれたとのこと。今後も継続して開かれるとのことから、このような取り組みが、歯科衛生士と看護師とが連携するひとつのモデルとなっていくことを期待しています。

第58回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会で、第5学年の金 亨俊君が学術奨励賞を受賞したとのこと。将来の勉強や研究に対する学生達の意識も違ってくるのではないのでしょうか。学内の若手の研究者も、日本矯正歯科学会で優秀発表賞を受賞した石井武展助教、日本理工学会学術講演会で発表優秀賞の武本真治講師、日本口腔外科学会総会で優秀スター発表賞の有坂岳大助教、日本臨床細胞学会でポスター賞の山科光正大学院生……。秋の学会シーズンに、多くの受賞が続いています。

西村正雄名誉教授が逝去されました。マドロスバイブを手に、きちんと背筋を伸ばしながら「諸君は…」と話しかける声が聞こえてくるようです。

第33回東京歯科大学管弦楽団定期演奏会がおこなわれました。部員達の努力で講堂の席は観客で埋まり、舞台上には現役部員や幅広い年齢層の卒業生の方々に混じって、普段とは違う学内の先生方の顔もちらほら。…素晴らしい演奏だったことを満場の拍手が物語っていました。

歯科衛生士専門学校60期生の卒業研究発表会がおこなわれました。3年間の学生生活を締めくくる晴れの舞台。その努力は、300ページを超える厚い論文集と、大勢の聴衆の前で演台に立ち、緊張の中でスライドを示しながら発表するその姿の中に感じられました。
(広報・公開講座部長 橋本貞充)



「秋の日を映す定礎板」。竣工・昭和五十五年九月吉日、丁寧に磨かれた定礎板の中には、どんな思いが詰めこまれているのでしょうか……。